

2026 年 10 月 26 日

2025 年度のスチール缶リサイクル率は 93.4%

- 2011 年度以降 15 年連続で 90%以上を達成しました。
- 2021 年度から始まり 2025 年度を目標年度とする自主行動計画 2025 のリサイクルの数値目標「93%以上維持」を達成しました。
- スチール缶リサイクルは、何にでも何度でもさまざまな鉄鋼製品に生まれ変わるクローズドループリサイクルです。
オープンループリサイクル(熱回収・カスケードリサイクル)と比して、より天然資源の新規投入量や廃棄物の削減に貢献しています。

● 国内での資源循環システムが確立している、スチール缶のリサイクル

- 飲料用スチール缶の分別・再資源化が社会に浸透しており、97%以上(※)の自治体で分別収集の対象になっています。 ※全国 815 市区の調査結果
- スチール缶スクラップは、高品質のスクラップとして高い評価を受け、全国の鉄鋼メーカーで安定的に使用されています。
- 国内で発生するスチール缶スクラップは、その殆どが国内で製鉄原料として再資源化されています。

● 高付加価値化・高品質化が進展している、スチール缶のリサイクル

- 使用済みスチール缶の一部が、全国の鉄スクラップ取扱事業者において高付加価値化のためシュレッダー処理され、スチール缶スクラップ以外の規格でも鉄鋼メーカーに受け入れられていることから、2009 年度より調査して、この一部を再資源化重量に加えています。

● カーボンニュートラルに向けて果たすスチール缶リサイクルの役割

- 2025 年度のスチール缶再資源化量は約 264 千トンでした。
1トンの鉄スクラップをリサイクルすることによって、1.28トンの二酸化炭素排出削減(※)につながります。
- 2025 年度のスチール缶のリサイクルによって、約 338 千トンの二酸化炭素排出削減に寄与しています。

※(一社)日本鉄リサイクル工業会 HP より

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

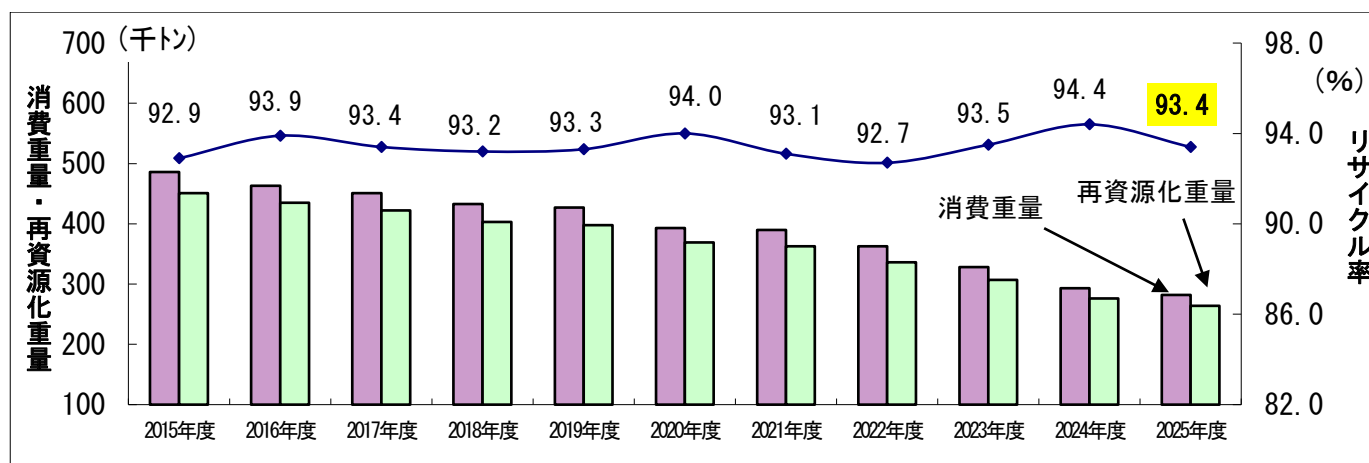
スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 外蘭(ほかぞの)

電話: 03-5577-2241 FAX: 03-5577-2242

E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp

2025年度のスチール缶リサイクル率は93.4%

スチール缶消費重量 282,306 トンに対して再資源化重量 263,765 トンでした。



年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
消費重量(千トン)	486	463	451	433	427	393	390	363	328	293	282
再資源化重量(千トン)	451	435	422	403	398	369	363	336	307	276	264
リサイクル率(%)	92.9	93.9	93.4	93.2	93.3	94.0	93.1	92.7	93.5	94.4	93.4

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで3ヶ月かかると見なして、消費重量は2025年1～12月、回収・再資源化重量は2025年4月～2026年3月のデータにより算出しました。

$$\frac{\text{再資源化重量}}{\text{消費重量}} = 93.4\%$$

$$\text{消費重量} = \text{空缶出荷量} - \text{缶詰輸出量} + \text{缶詰輸入量} + \text{空缶輸入量}$$

$$\text{再資源化重量} = \text{鉄鋼メーカー等購入量} - (\text{アルミ蓋重量} + \text{異物重量})$$

全国の電炉メーカー・高炉メーカー・鋳物メーカー・ペレットメーカー等にスチール缶スクラップ(Cプレス及びCシュレッダー)利用量に関するアンケート調査を実施、その回答を集計。

これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者において、スチール缶スクラップがシュレッダーなど処理された後、スチール缶以外の規格で再資源化し、製鋼原料として売却された重量を集計(調査により把握できた量のみ計上)。

上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及び水分等異物の重量を除いて算出。

.....
<本件に関するお問い合わせ先>

スチール缶リサイクル協会 担当: 事務局 外蘭(ほかぞの)

電話: 03-5577-2241 FAX: 03-5577-2242

E-mail アドレス: recycle@steelcan.jp